

◆ 今週のコメント

- ・ 細菌性赤痢(フレキシネル(B群))の報告が1例(男性, 20歳代)あります。症状は下痢・腹痛・テネスマス(しぶり腹)・軽度の鼻水・咳です。推定感染地域は国外(インド)で, 推定感染経路は経口となっています。
- ・ ジアルジア症の報告が1例(男性, 10歳代)あります。症状は下痢で, 推定感染地域は国外(インド)です。推定感染経路は経口となっています。
- ・ 梅毒(早期顕症・I期)の報告が1例(女性, 40歳代)あります。症状は, 硬性下疳・鼠径部リンパ節腫脹(無痛性)で, 推定感染地域は国内です。推定感染経路は, 性的接触(異性間)となっています(第12週(3月19日～3月25日)追加分)。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は6.34(260例)です。第3週(1月16日～22日)に11.05とピークとなった後, 第5週(1月30日～2月5日)以降, 横ばい状態が続いています。京都市衛生環境研究所で受け付けた感染性胃腸炎の検体から, 3月にノロウイルスGⅡ型が4件, アデノウイルス40/41型が1件, ロタウイルスが4件, 4月にロタウイルスが2件検出されています。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は9.78(665例)で, 「10」を下回りましたが, 過去5年平均値を上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 1例(肺結核 1例, その他結核 なし, 潜在性結核感染者 なし)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 80例(肺結核 26例, その他結核 20例, 潜在性結核感染者 34例)うち喀痰塗抹陽性 16例】
- ・ 三類: 細菌性赤痢(フレキシネル(B群)) 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類: ジアルジア症 1例【1月以降の累積報告数 1例】
- ・ 五類: 梅毒(早期顕症, I期) 1例(第12週追加分)【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	9.78	665
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	6.34	260
	② 水痘	1.15	47
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.98	40
	④ 流行性耳下腺炎	0.22	9
	⑤ 突発性発しん	0.20	8
眼科	流行性角結膜炎	0.20	2

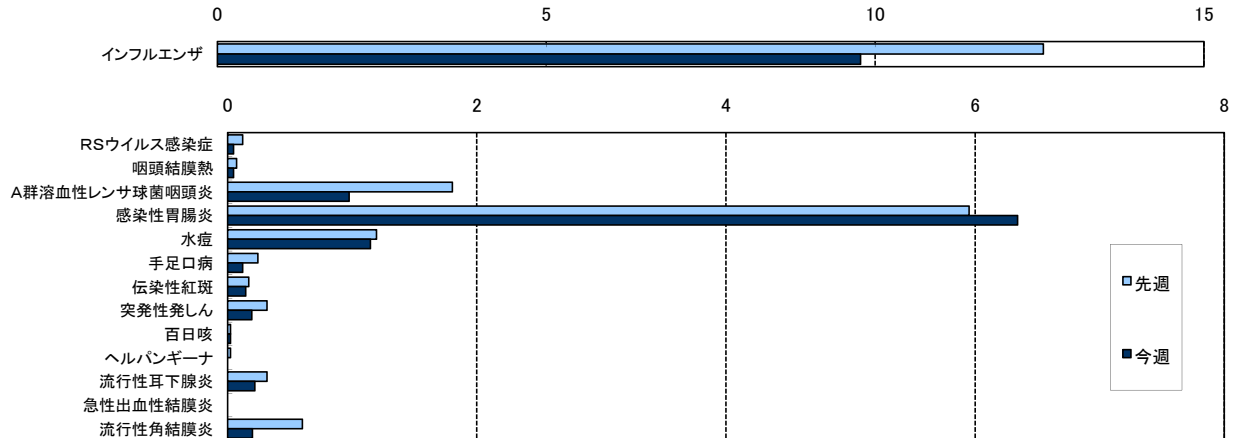
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

(注) 京都市のデータは, 平成24年4月5日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。
また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

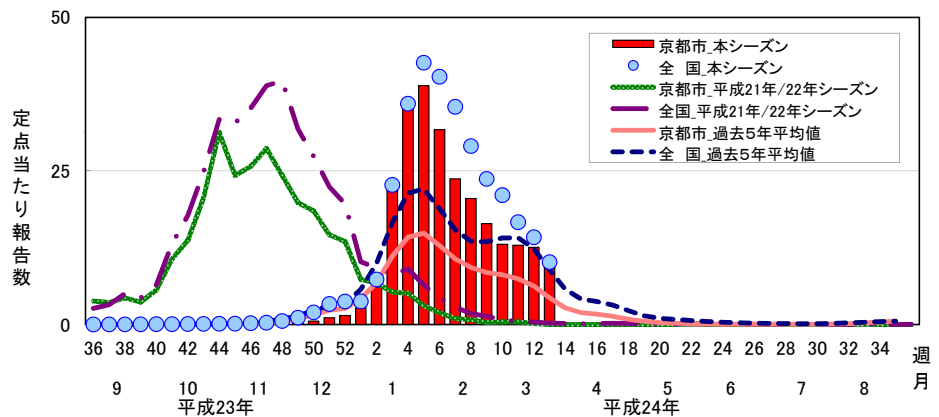
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第13週)と先週(第12週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第9週	1,068
第10週	849
第11週	878
第12週	854
第13週	665
累積報告数(第36週以降)	16,312



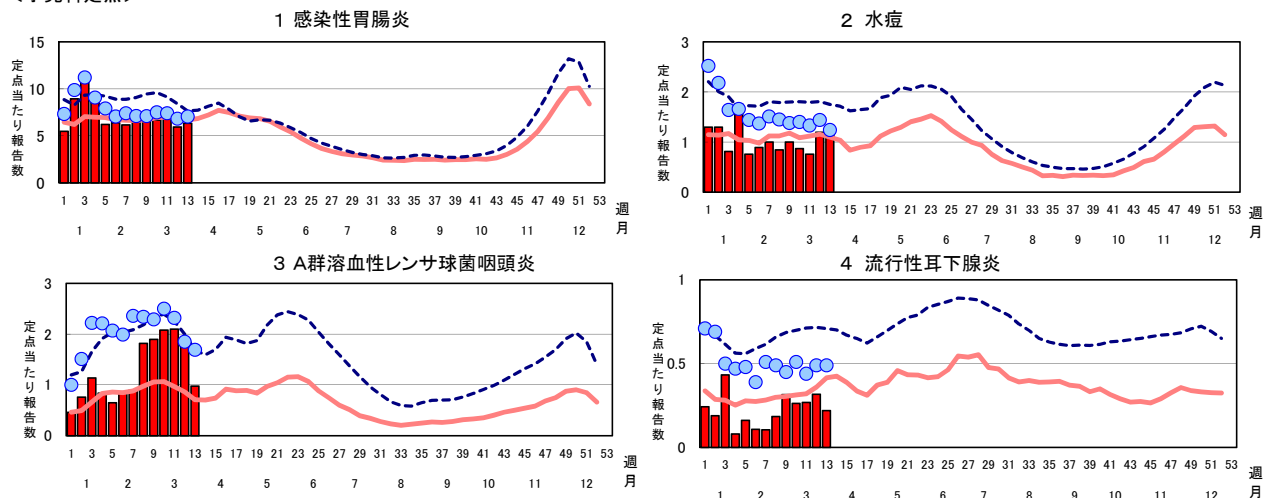
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。

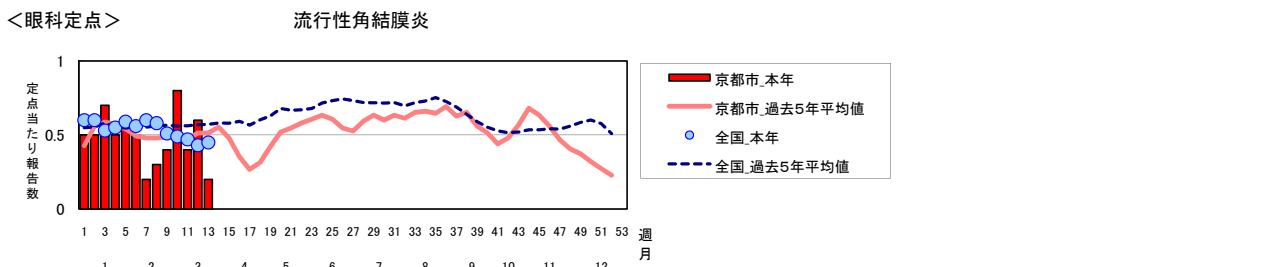
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



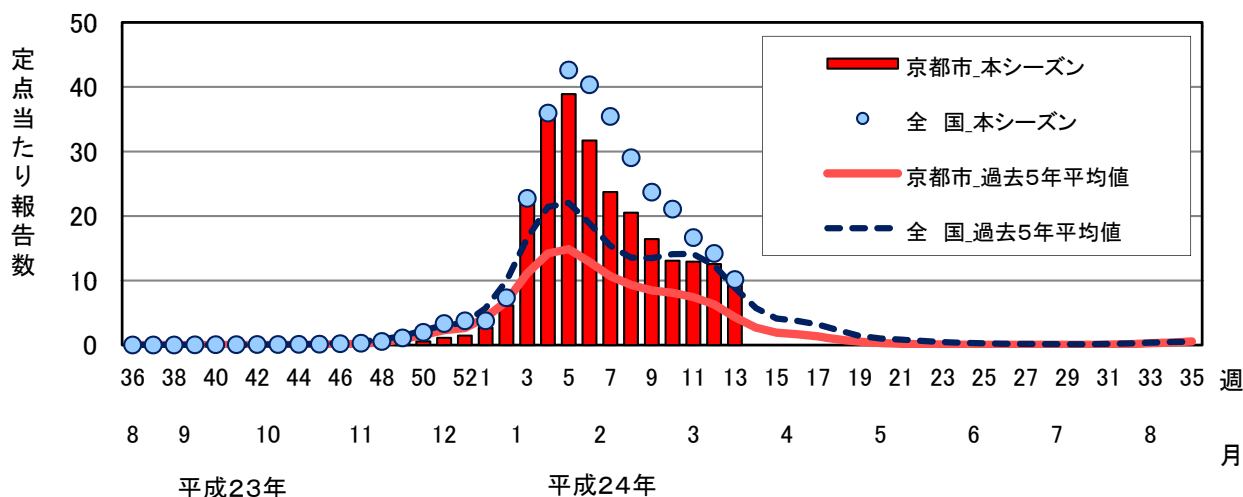
第13週(3月26日～4月1日)トピックス: <インフルエンザ>

インフルエンザの定点当たり報告数は9.78(665例)で、「10」を下回りましたが、過去5年平均値を上回っています。

年齢群別では、5歳～9歳が38.0%と最も多く、次いで0歳～4歳24.8%、10歳～14歳14.9%の順で0歳～14歳が77.7%を占めています。先週と比べると、大半の年齢群で減少(0～4歳は横ばい)していますが、20～29歳は2週連続で増加しています。

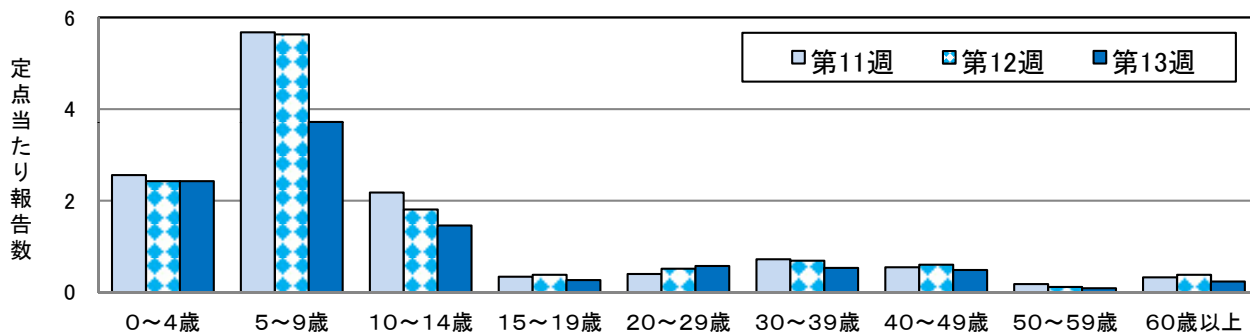
今シーズン京都市衛生環境研究所で受け付けた検体から分離されたインフルエンザウイルスは1月まではA(H3)亜型が主流でしたが、2月以降、B型が大半を占めています。また、全国でもB型の割合が多くなっています(平成24年4月10日現在)。

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



※過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23の平均値です。

年齢群別定点当たり報告数の推移



インフルエンザウイルス月別分離検出数の推移

